

各水試発トピックス

令和7年度水産研究本部成果発表会を開催しました

令和7年7月3日（木）に、水産研究本部主催で、かでの2. 7（札幌市）において「令和7年度水産研究本部成果発表会」を開催しました。今年はこれまでの1日開催から内容をぎゅっと凝縮して、午後からの半日開催とするとともに、前半が口頭発表、後半がポスター発表の2部構成としました。今年度の参加人数は総計351名で、内訳は会場参加が198名、WEB参加（事前申込者数）が153名でした。

前半の口頭発表は、本会場（かでのホール）で開催しました。冒頭に星野本部長が「本道の水産試験研究の今」と題して、本道の水産業を取り巻く状況や水産試験場が実施している試験研究の概要について説明しました。続く口頭発表では、「本道の養殖業を支える研究開発」をテーマとし、海藻（1題）、ウニ（1題）、ホタテガイ（1題）およびサーモン（4題）の各分野の最新の研究成果について報告しました（写真1）。

後半のポスター発表はポスター会場（展示ホール）に場所を移して、次の12題について、担当の

研究者と参加者が対面にて、質疑と意見交換を行いました（写真2）。

- ①促成養殖で天然ものに匹敵するガゴメを作る
- ②秋から冬に行うキタムラサキウニ養殖技術開発
- ③日本海のホタテ生産安定化に向けて
- ④道産養殖サーモンプロジェクト
- ⑤環境にやさしい養殖の仕組み作り
- ⑥津軽海峡を通過する流量の再評価
- ⑦ホッケ0歳魚の誕生日と成長を調べる
- ⑧増加した道産フグの正体
- ⑨サケは川でどれぐらい産卵できるのか？
- ⑩エネルギー価で評価するサケ稚魚の餌環境
- ⑪サケひれを活かして美味しくサステナブル
- ⑫魚肉熟成の科学に迫る！

成果発表会を通して、水産試験場の研究成果を広く・わかりやすく周知することにより、水産試験場への理解がより一層深まること、さらには水産業の発展に役立つことを期待したいと思います。

（三原行雄 水産研究本部企画調整部）



写真1 本会場における口頭発表（かでのホール）

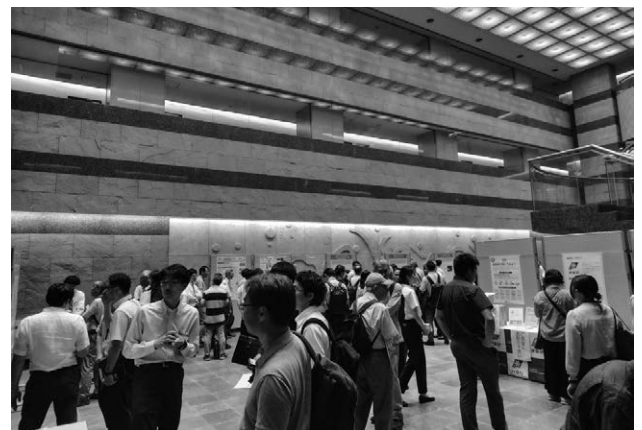


写真2 発表者からポスター発表（展示ホール）